

運転保守状況(備考欄)

1号機

3月26日

定格熱出力一定運転中に定期試験(原子炉保護系ハーフスクラム試験)を実施したところ、制御棒1本が全挿入となり、発電機出力が46万9千キロワットから46万4千キロワットまで低下。出力低下後は46万4千キロワットで安定に運転を継続。

放射性物質の放出はなく、環境への影響はない。(中国電力(株)公表済)

4月13日

原因調査の結果、当該制御棒に係る片方の電磁弁の接続状態が不安定(接触不良)であったため、無通電状態(無励磁状態)となっていたところで、もう片方の電磁弁を無通電状態(無励磁状態)とする定期試験を実施したために当該制御棒が誤って全挿入したものと判明。

接続状態が不安定となっていたのは、制御棒を緊急挿入するために設置している2つの電磁弁(スクラムパイロット弁)のうち、片方の電磁弁の電源端子が異なった仕様のネジにより締め付けられていたため、十分な締め付けができなかったことが原因。

再発防止対策⁽¹⁾として点検方法の改善、教育の実施、手順書等の改訂、根本原因分析の実施を行う。

当該端子箱については作業性のよい端子箱と取り替え、準備が整い次第、元の状態(全引抜き状態)に戻す。⁽²⁾(中国電力(株)公表済)

同日15時52分に当該制御棒の引抜き作業完了し、発電機出力は46万9千キロワットに復帰。

- 1 再発防止対策の詳細等については別紙2参照。
- 2 4月13日15時52分に当該制御棒は元の状態(全引抜き状態)に戻り、発電機出力は46万9千キロワットに復帰。